

令和7年度第1回我孫子市まち・ひと・しごと創生有識者会議（B分科会）

議事概要

開催日時	令和7年8月28日（木）午前10時00分～12時05分
開催場所	我孫子市役所 議会棟 AB会議室
出席者	委員：林委員長、池田委員、小川委員、庄司委員、薬師寺委員 事務局（企画政策課）：吉岡課長、河合課長補佐、鈴木主任、岡村主任、原田主任主事
公開／非公開	公開
傍聴人	0人

【議題】 令和6年度施策評価について

◎基本目標3 あびこで子どもを産み、育てたくなるまちづくり

○施策名称：3-1 妊娠・出産・子育てへの切れ目ない支援

<発言要旨>

委員：指標「妊婦健康診査受診率」の未達成の要因とされる「妊娠の中断」が流産など一定数避けられない事情であるならば、最終的に令和9年度に目標値100%を達成することは困難ではないか。

指標「子どもに関する相談の終結割合」について、令和4年度、5年度の実績値を下回る目標値としたのはなぜか。

あびっ子クラブのチャレンジタイムとはどのようなものか。

事務局：妊婦健康診査の受診率が未達成となった要因としてはその他にも、事前の届け出がなく出産に至ってしまうケースなどがある。総合計画策定時から継続して使用している指標であり、次回の計画策定における指標の設定に際してはご指摘の内容を参考とするよう担当課と共有する。

相談の終結割合の目標値は、元々事務事業の評価指標として使用していたものをそのまま採用している。

チャレンジタイムは、習字や琴、パターゴルフ、囲碁など、地域の方にサポーターとして来てもらい実施しているプログラムである。

委員：やむを得ないケースを除いた、本来健診を受けなければならないのに受けられていない方が実際にどれくらいいるのかは把握されているか。

事務局：我孫子市で届け出を提出された後、転出によりその後の状況が確認できない場合などもあることは担当課に確認している。より詳細な把握が可能なのか、担

当課と相談させていただく。

委員：担当課のコメントに、妊娠育児相談窓口を新たに開設した、とあるが、どのようなものか。

事務局：妊娠届出時の面談はこれまで湖北地区にある保健センターを中心に行っていたが、より届出と面談をしやすい環境を整えるため、我孫子駅南口の商業施設内に妊娠届出の窓口を新たに開設した。

<施策の評価>

「概ね良好」とした。

○施策名称：3－2 子どもの成長に応じた発達への支援

<発言要旨>

委員：教育相談センターの指標について、令和4年度、5年度から顕著に実績値が上昇し達成となっている。集計の仕方や値のとり方に従前と違いがあるのかもしれないが、事務局の説明であった丁寧な聞き取りなどが満足度の向上につながったと理解してよいのか。それ以外にも上昇した要因や利用者の満足度向上につながる取組や背景があるのであれば、共有していただけると他の施策にも役立てられるのではと思うがいかがか。

事務局：昨年度も有識者会議において、令和5年度実績値 94.4%に対し、達成していない部分についてはどういった声があったのかご質問いただいたが、全体として「相談させてもらえてよかった」「安心した」などの声が多く、100%に達していないのは、年度内に受けた相談が必ずしも年度末までに学校での課題解決につながっていないことから、100%を達成するのは難しい状況であることを説明させていただいた。

それに対して令和6年度実績値が100%になっているのは、すべてのケースが課題解決につながったからという整理にすることは困難。担当課のコメントで、今後は多くの相談者の感想が把握できるようアンケートの周知についても検討していく、とあるように、アンケートの実施方法自体は書面でも電子でも行っているものの、年明けからの3学期での収集となっており、アンケート期間外の相談で完結するケースやアンケートを受理することなく電話で相談を終える方もいる中で、今回はアンケート期間中の回答者における集計結果としては100%になっているという状況。中にはアンケート期間中の相談であっても、

相談時に得られた助言等を参考にお子さんの対応にあたってみるという相談結果も考えられ、アンケートに答えるまでの整理に至っていない状況も想定される。

担当課との確認ではアンケートの回答数や回答率が高くないことが課題と共有しているところであり、このことについては、相談者の声をもらえないと次年度の事業実施に活かしきれないところもあるため、今後はより多くの方からアンケートをいただけるよう取組を進めたいと確認している。

委員：ひまわり園の保護者アンケートでは、様々な取組に対して保護者の方から満足しているとの回答が多数得られている一方で、少数ではあるものの課題を指摘されている項目もあるので、そういった取組に対して担当課ではどのように考えているか。

事務局：担当課へ詳細のヒアリングはできていないが、支援の内容に対するご意見以外に散見される実施回数などについてのご意見については、天候や関係機関との調整による影響もあるものと考えられるので、引き続き連携・調整を図りながらより良い支援を目指していくものと捉えている。

委員：指標の「受理面接後、子どもとその保護者に対して相談や療育につながった割合」について、当初は市の発達センターに通っていた子が民間の児童発達支援施設に通うようになるケースも増えており、そのような変遷について保育園や幼稚園と行政、そして民間の施設がどこまで連携できているかによって把握数は変わると思われるため、目標値を令和9年度に100%としているが、その達成は難しい面もあるのではないか。

委員：相談支援の流れにおいて、アセスメント・サービス等利用計画案作成を行わないとその先のサービス利用申請に進めないというのは課題がないのか気になった。発達相談について、乳児の頃から行動などを見て親の判断で相談に至り、かつ子どもの発達について親自体が理解して受け止めるというのはすごく難しい作業である中、相談から発達センターなどの療育につなげることができた割合が担当課のコメント内容の数値までなっていることはすばらしいことだと思う。今後の課題は、理解を得るのが難しい方に対してどのように支援していくのかを考えていく必要がある。

委員：未達成の指標もあるが、発達センターは園との連携による巡回相談など、園児を見ていただいてから保護者にどのように説明するかも含めてきめ細かく話し合

って伝え方も決めながら取り組んでいる。療育につながらない家庭もある中で実績値としては未達成ではあるが、かなり高い数値と捉えられ、施策全体もそれを加味して良好の評価で良いのではないかと。

<施策の評価>

「良好」とした。

○施策名称：3－3 魅力ある学校づくり

<発言要旨>

委員：校内教育支援センターの増加により、全市的にどのくらいいる不登校児童生徒が、どれだけ元々の教室までや家から校内教育支援センターまでは行けるようになったかなどのデータはあるのか。

事務局：いわゆる不登校児童生徒と言われる児童生徒について、教育支援センター、校内教育支援センターに通っている児童生徒がどのような状況で、登録者数や実際に日々どのくらい登校しているのか、どの子が校内教育支援センターからどのくらいの頻度で元々の教室に通えるようになったのかなど、教育相談センターは校内教育支援センター指導員やコーディネーターと情報共有等を行い随時把握している。

データとしては、ある日どこかの時点で区切って確認・集計すれば数値として算出することは可能だが、それが市の不登校児童生徒の実態を的確に表す数値となるかについては一概にそうとは言えないものとなっている。

これは、校内教育支援センターの設置によって、不登校児童生徒の居場所や通い方については多様化が進んでおり、1学期には元々の教室に通えたが夏休み明けからは行けなくなり校内教育支援センターに通うようになった、そこでの指導等により得意な科目や好きな授業などについては元々の教室に友達の誘いもあって戻れるようになった、など児童生徒一人ひとりの心の状態や学習状況により日々刻々と登校状況が変わっているためである。そのため、教育相談センターでは一人ひとりのケースを確認・把握しながらその児童生徒の現在の状況に適している場所、学校生活が楽しいと思える場所に行ってもらおうという取組を進めている。

委員：令和6年度の実績値では市内小中学校全19校のうち、残り5校が未整備という状況だが、直近では市内全域がカバーできるようになっているのか。

事務局：今年度も順調に増設の取組を進めており、9月にさらに増設予定で、これにより市内すべての小中学校に校内教育支援センターを設置できることとなった。今後は学校間での横の連携、教育相談センターや教育支援センターとの連携といった、また新たな次のフェーズとして不登校児童生徒対策を全市的にどのように進めていくかという段階となっている。

委員：新たな段階を迎えられたあとには、なかなか難しいとあった数字の捉え方含めて、成果の把握方法を模索していくという理解で良いか。

事務局：市としてこの校内教育支援センターの設置という政策がどれだけ効果を発揮し成果として上がってきているのかということについては、何らかの形で説明できるように担当課と協議していきたい。

委員：指標「学校評価アンケートで、「楽しく学校生活を送っている」と回答した児童生徒の割合」について、設問形式の現状と100%を目指す目標値設定について確認したい。

事務局：設問形式については、令和6年度のアンケート実施時は各学校長の裁量により適切に設定し、確認の仕方についても委ねていた。今回指標として設定するにあたっては、今年度以降、可能な限り統一的な設問形式で実施できないか担当課を通して各学校に依頼している。
目標値の設定としては担当課に確認したところ、すべての児童生徒が楽しい学校生活を送れることを目指して100%に設定している、ということで確認している。

委員：設問形式の設定や聞き方について、今回指標として設定してこの有識者会議で説明いただいているということは、後々公表して市民の皆さんにも見ていただくものとなるため、理想としては標準的なフォーマットにおいてどの学校も同じ方法で実施していただくことが望ましい。少なくとも指標にしているものについては設問形式などを統一化すべきである。担当課から各学校に働きかけていただきたい。

委員：学校評価アンケートの今回の報告からは、一部の学校で課題の整理が必要と考えられる値になっているので、これについての分析と課題整理、今後の対応についてどう考えているのか確認したい。質問に対する回答区分などについても把握していれば教えてほしい。

事務局：担当課に確認し回答したい。

委員：施策全体としては良好の評価で問題ないが、各論で見えていくと、例えば学校アンケートで数字が低いところがあるという懸念などもあるので、会議で出た意見については担当課へ共有いただき、今後の取組を検討いただきたい。

<施策の評価>

「良好」とした。

○施策名称：3－4 心豊かにする体験・活動の推進

<発言要旨>

委員：あびっ子クラブの登録率を上げていく指標設定となっているが、今習い事などは多岐にわたっていてあびっ子クラブの利用自体も変化しているのではと思われる。チャレンジタイムの有無やその内容によりあびっ子クラブの参加人数に増減はあるのか。チャレンジタイムの登録サポーターが少ない学校においてあびっ子クラブの登録率が高い傾向に見えるが、学校間での登録サポーターの行き来は可能なのか。

事務局：放課後における子どもの居場所づくりという視点で担当課において目標値を設定しているが、学校外での過ごし方については多様化していることが想定される。減少の要因としては登録料の値上げも考えられるということで、あびっ子クラブのあり方について今後検討が必要となっている。登録サポーターについては、地区によって差がある中で、基本的には近隣の歩いて来られる方が中心となっていると考えられるが、学校をまたいだ流動的な動きの可否については担当課に確認したい。

委員：あびっ子クラブの登録率を指標としているが、児童数が減少している中で、そういった点も加味して評価すべきではないか。

事務局：各学校の児童数の推移も含めて、可能なかぎり実態が見える化できるように担当課と共有し調整していく。

委員：あびっ子クラブの受託事業者の変更による影響は大きいものなのか。

事務局：学童保育室は保育の場であるため、配慮が必要な児童に対して加配対応が可能となっているが、あびっ子クラブにはそういった対応はない。学童とあびっ子クラブを一体的に運営委託している中で、事業者によってはスタッフが行き来して柔軟に対応してくれるが、受託事業者が変更になると対応が変わってしまうのでは、というような懸念が聞かれるとのこと。

委員：学校への調べ学習支援件数の報告では、この支援を活用している学校と全く活用していない学校もあるように理解できるが、学校によって取組の違いが影響しているのか。

事務局：学校での取組の差よりも、各学級の学習の進め方の差ということで確認している。

委員：市として、教育委員会として調べ学習への重点をどの程度置いているのか疑問に感じる。子どもたちの心を豊かにするために必要な取組なのであれば、学級担任の切り替わりなどにより失われることのないよう、教育委員会として学校として大切にしていきたい。

事務局：担当課のコメントにあるように、思考力を身に付けていく、授業のテーマに適した図書を自分で借りる、あるいは支援いただいた図書の中から選び取っていくような力を養うことは大切にしているため、担当課との確認では今度も学校への呼びかけの場、こちらについては定期的な会議含めて機会が設けられているということであるため、しっかり取り組みながら件数の増加を図りたいということで確認している。

それと並行して学校図書館の蔵書の充実のため、図書館司書と学校図書館司書が連携し、学校図書館にある本の中から児童生徒が自分たちで必要な本を選び取って学習に活用できるよう底上げを図りたいと確認している。

委員：学校図書館の蔵書の状況においては、ばらつきはある状況なのか。

事務局：学校図書館の蔵書数は、文科省における学校図書館図書標準を満たしていくように教育委員会で予算を措置しているが、もちろん中には古くなってしまっている本もあり、その点については学校図書館司書が内容の古さや汚損など廃棄が必要かどうかについて見定めながら、この基準を満たすような蔵書の拡充を進めている。

委員：学校図書館にも多くの蔵書があるように感じられており、蔵書が豊富にあれば支援件数も学校によって下がってしまうとも考えられ、単純に調べ学習支援を利用していないから教育委員会が目指す学習方法を実施できていないとは言えないのではないかと考える。

<施策の評価>

「概ね良好」とした。

◎基本目標4 あびこにずっと安心して住み続けられるまちづくり

○施策名称：2-2 健康づくりの推進

<発言要旨>

委員：がん検診に関して、目標値を見ると倍に増やす目標となっているが、担当課のコメントでは市の検診以外で受診する人も増えているということなので、目標値を設定する上で実態に合わせた現実的な数値とする必要があるのではないかと考える。

<施策の評価>

「良好」とした。

○施策名称：2-3 高齢者福祉の推進

<発言要旨>

委員：きらめきデイサービスの利用者数について、コロナ禍で減少した影響が続いているとの担当課のコメントがあるが、令和元年度及び2年度の実績値は把握しているか。

委員：要支援・要介護認定率について、目標値の設定理由は何か。国や県の目標値を用いているのか。

事務局：きらめきデイサービスの令和元年度及び2年度の利用者数並びに要支援・要介護認定率の設定理由について、本日資料がないため次回会議にて報告させていただき、その上で施策の評価をお願いしたい。

【その他事務局連絡事項】

・第2回会議では、第2世代交付金を活用して実施する「五本松運動広場整備事業」に

ついて担当課より説明を行う。

以上